

## 図書館利用者と石神井図書館長との懇談会

- 1 日時 平成29年10月31日（火）午前10時～11時45分
- 2 場所 石神井図書館 会議室
- 3 参加者 利用者 11名  
図書館 3名（館長1名、副館長2名）
- 4 テーマ 「地域と共に歩む石神井図書館を考える」
- 5 配布資料 (1) 練馬区立図書館ビジョン（概要版）  
(2) 石神井図書館の概要、事業イメージ  
(3) 練馬区教育要覧（抜粋版）、石神井図書館事業実施報告書  
(4) 練馬区立図書館講座・講演会等事業実施一覧  
(5) 平成28年石神井図書館への主な意見・要望一覧  
(6) 「最近の図書館」「これからの図書館」  
(7) 「利用者の声」受付概要（平成29年4月～10月）  
(8) 図書館だより第36号、しゃくじい通信第3号  
(9) 練馬区立図書館利用案内  
(10) 懇談会アンケート
- 6 次第 (1) 石神井図書館長挨拶  
(2) 図書館職員紹介  
(3) 参加者自己紹介  
(4) 図書館事業説明  
(5) 懇談

## 図書館利用者と石神井図書館長との懇談会 会議録

### 1 石神井図書館長挨拶

皆さん、おはようございます。本日はよろしくお願いいたします。

各図書館では、10月27日から11月9日までの秋の読書週間に、このような利用者

と館長の懇談会を開催しており、当館は本日31日、平日の開催という形にさせていただきました。他館は大体が土日の開催ですが、今回、今日ご参加いただいた方たちの多くが、地域施設を運営されているため、平日開催ということにさせていただきました。一般の区民の方で土日がいいというお話も伺っておりますが、今年については平日開催ということでご了承いただきたいと思います。

今回も昨年に引き続きまして、小中学校、福祉関連施設、コミュニティ関連施設、ボランティア団体の方々など31名の方にお声がけをし、また区民の方につきましては、ねりま区報や図書館ホームページ等でご案内させていただきました。

先ほど司会からもございましたが、今回のテーマも昨年に引き続き、「地域と共に歩む石神井図書館」ということで設定させていただきました。私が着任した昨年からは、このような会の持ち方にさせていただいておりますが、それまでは区民の方からの利用に関しての苦情とか要望をお伺いする会だったと聞いております。地域でどのような図書館運営をしていったらいいかということを皆さんと共に考え、交流の場としたいと考えております。短い時間ではございますが、よろしくお願いいたします。

## 2 図書館職員紹介

館長、副館長2名の自己紹介

## 3 参加者自己紹介

省略

## 4 図書館事業説明

(石神井図書館長より説明)

まず、練馬おはなしの会の立ち上げについては、35年前、私が新規採用で練馬公民館に入ったときに、成人学校という事業を担当して、その時にできあがった会がいまでも続いていることを大変、うれしく思っています。おはなしの会からは、会員数を増やす、活動を増やしていきたいということで、お母さん向けの講習会等を

企画したいというお話をいただいています。今日は男女共同参画センター所長もいらっしゃいますので、会場として使われたらどうかなと思いました。この懇談会がそういった参加された方を繋ぐ場になればと思っています。また、私は以前、社会教育主事という立場で、行政と地域をつなぐコーディネーターとして活動をしてまいりましたので、この会で出された皆様の意見を取りまとめて、いろいろな活動に繋がるよう土台を作っていければよいと考えています。

また、今日は高齢者相談センターの所長も来ていらっしゃいますが、私も地域包括支援センターの前身であります大泉基幹型在宅介護支援センターの所長代理という立場で、5年間、やらせていただいたので、高齢者支援、高齢者教育についても大変関心の高いところであります。昨年、その関係で、埼玉県の介護支援専門員に登録をさせていただきましたので、ケアプランに図書館サービスをどのように位置づけられるかというようなことも、後半の部分で、皆様とお話ができたらと考えております。よろしくお願いいたします。

それでは、着座にて資料説明をさせていただきます。

大変資料が多くて申しわけございませんが、できるだけ手短にお話しさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、図書館ビジョンでございます。

これは平成25年から10年間の図書館ビジョンについてまとめたものです。

絵に描いた餅にならないようにということで、私もいろいろと取り組んでおりますが、情報拠点として、「区民に役立ち、頼りにされ、そして愛される図書館づくりを目指す」ことを基本理念としています。

その中で四つの柱がありますが、一つ目に情報発信拠点ということで、地域情報の発信拠点という項目についてです。これは、館内掲示を含めた施設の活用ですとか、地域イベント、それから、今日いらっしゃっている近隣施設との連携事業の実施などを含めて情報発信をする取り組みについてです。

2点目に、学校及び子育て家庭支援についてですが、これは学校との関係、あるいは保育園、幼稚園との関係、それら教育関係施設と連携を図りながら、子どもの健全育成といった役割を担っていくということでございます。

そして、3点目が図書館の資料や人材の活用です。まず、職員の専門性や資料の活用とありますが、ここでは生活に密着した課題の解決に向けた事業の実施というのがあります。単に図書館は本の貸し借りだけではなく、さまざまな社会的課題、地域課題に対応した事業を実施していくということも役割の一つですので、それに対する職員の専門性を活かす取り組みが求められています。

次に、図書館の利用促進ですが、この部分では障害者、高齢者、多言語サービスの充実という課題があります。今日いらっしゃっている白百合福祉作業所、あるいは高齢者相談センターなどと連携してサービスの充実を図っていくという内容もこの項目に含まれるところであります。

そして、最後の4点目、区民や地域との協働の部分ですが、ここは非常に重要だと考えています。図書館事業への参加、参画の推進ということでは、サポーターやボランティアの方たちを育てご協力をいただかないと、なかなか職員だけでは館の運営が成り立たないという状況になってきております。多くの区民の方が参加・参画して、施設づくりや事業運営を図っていく。後ほど、今日の課題にも挙げますが、その中身がここに挙げられています。

さらに、地域との連携・協力についてですが、先ほども挙げましたが、地域活動の推進として、生涯学習、地域活動の場、発表の場として図書館を活用していただくことも大切なことと考えています。雑駁ですけども、ビジョンについては以上になります。

このビジョンをもとにして、石神井図書館としてどういう運営方針を立てているかというのが、次の資料になります。

石神井図書館の概要資料をごらんください。

まず、当館の目標ですが、当館は「区民の生涯学習を支援し、地域と共に歩む図書館」を目指しています。

この目標を達成するために、「現代的・社会的課題並びに地域課題に対応した図書館ならではの事業、企画を実施していきます」「図書館を利用していない区民、利用が困難な人々に対しての具体的なサービスを実施します」の2点をあげて取り組んでいます。

具体的にまだ実施できていない部分がありますので、これを今日、皆さんと共に考えていきたいと思っています。

蔵書数、来館者数についてはごらんのとおりでございますが、職員数は、私を含めて21名の職員体制で平日の日中は区の職員が直営でやっております。夜間、土・日・祝日については、窓口業務委託を行っております。

裏面をご覧ください。図書館事業の事業展開図となっておりますが、これは昨年もお出しした資料になります。

石神井図書館を中心として、いろいろな社会資源と連携して事業を組み立てていくイメージ図となっております。NPO等の地域活動団体であったり、民間企業から小中学校、大学、それから地域施設であるふるさと文化館や白百合福祉作業所、地区区民館、えーる、消費生活センターなど連携して事業を展開していくというイメージです。

組織目標以下の部分については、先ほどのビジョンと合わせてで説明した内容をまとめたものになりますので、後ほどお目通しいただければと思います。

次に、教育要覧の抜粋資料です。これについて、簡単に説明させていただきます。

これは、昨年度、区立図書館が実施した事業ですが、ここでご説明するのは、主に乳幼児と子ども事業を中心に説明させていただきますので、細かい部分は省略させていただきます。

子どもの読書活動の推進事業は、各図書館で取り組んでいる乳幼児および子どもを対象とした事業になります。

まず、ブックスタート事業ですが、絵本を通じて親子のふれあいを深め、本に親しんでいただくことを目的としています。この事業は、石神井図書館ブックスタートの会に委託して月の第2、第4土曜日の午前中に行なっております。親子で来ていただき、良い本を紹介しつつ、絵本の配布等を行う事業になります。

それから、本の探検ラリーです。これは、小学校、中学校で実施している事業で、クイズ形式でいろいろな本を並べて、予め用意したキーワードなども元に本を探してもらうことで、本に親しんでもらおうというものです。

それから、読み聞かせなどを行う「おはなしの会」は、今日をご参加いただいて

いる「練馬お話の会」ですとか、「赤ちゃんおはなしの会」などの団体に協力をいただきまして、定期的を開催しています。ほかに、おたのしみ会といった人形劇などを内容としたイベントも行っています。

次に、区民や地域との協働については、ボランティアとの協働事業です。

先ほど読み聞かせでご協力いただいている会も協働事業ですが、布の絵本の制作についてもボランティアという形でお力添えをいただいている内容でございます。

いずれの事業も地域の方々のお力添えのもとに、図書館は運営されています。

次の資料になります。

補足資料として、主に地域事業ですとか、新規事業を中心にまとめた「図書館事業実施報告補足資料」をご用意いたしました。

当図書館におきましては、地域に関連した事業、区民参加型の事業など、魅力ある事業を実施して、区民の読書活動につなげていこうという取り組みを行っております。

まず、朗読会関係でございます。

先ほど、子ども向けの事業が多いという話をいたしましたが、大人向けのおはなし会やブックトークも行っています。これらは一般向けに行ったものですが、対象を高齢者や障害者にして実施することもできるかと思えます。

福祉施設への出張おはなし会がありますが、新規事業ということで、白百合福祉作業所に出向いておはなし会をさせていただいております。先月は「しらゆり祭り」にも参加させていただきました。

今年の11月中旬以降は、高齢者福祉施設、有料老人ホームに行って読み聞かせをするということを考えております。地域には、認知症ケアカフェ等ができておりますけれども、そういったところにもできれば行きたいと思っています。ただ、実態をまだ把握しておりませんので、どういったお手伝いができるか、協力ができるかということは、今後、いろいろ教えていただきたいと思います。

次に、講座・講演会等でございます。

ここでは、生活に密着したテーマを中心に行っているもので、新しい図書館の活用法を提案していこうという取り組みになります。

館長企画で、新聞活用講座「まわしよみ新聞」を来たる11月10日に開催いたします。

紫色で書いてある文字は、この講座の目的を端的に書いたものですが、この講座では、「情報リテラシー、コミュニケーション」なっています。「情報リテラシー」というのは、「情報を読み解く力」ということで、情報が氾濫しているこの世の中で、正しい情報だけをきちんと読み解く力をつける。これは、日本人は非常に弱いところだというふうに言われています。裁判員制度ができたときによく言われた大事な能力となります。いま、オレオレ詐欺とか、振り込め詐欺、SNSによるいじめなど、いろいろありますが、正しい情報と誤った要らない情報を、正しく判断して取捨選択していく能力をつける。情報教育とも言いますが、そういった能力を身につけることを目的としてこの新聞活用講座を実施しています。具体的には、6大紙を読み比べながら、興味関心ある記事を発表しあって、グループでオリジナル新聞をつくる。その過程でコミュニケーションの輪が広がるという学習になります。

次に、自分史入門でございます。

これは図書館の資料などを活用して、自分の生きてきた歴史を社会の歴史も捉えながら文章化していくものです。これはえーるでも、私の社会教育主事の先輩職員が講師として女性史の観点で行っているかと思いますが、当館では地域の方に講師をお願いして、今年3月に実施いたしました。この講座では、思い出の写真を1枚もってきていただき、それをもとに自分史をつくっていくというやり方をいたしました。自分の生き方がこれまでどうだったかということをいま一度、振り返って、自分史をつくることで今後の人生につなげていく。還暦とはそういう意味もあるのかもしれませんが、自分史はそういう機会にもなりますので、社会背景などと併せて生きざまを振り返る意味では、豊富な資料を持ち合わせた図書館ならではの講座となりますので、今後もやっていきたい講座でございます。

そして、ビブリオバトル知的書評合戦。これは神戸大学の先生が発案したもので、自分のおススメ本を何人かで発表し合って、観覧者の方に一番読みたい本をチャンピオンとして決めていただくというゲーム感覚で図書に親しむコミュニケーションゲームです。図書の紹介を通じてコミュニケーションの輪が広がるという取り組み

で、これを今年3月と8月に実施したところです。

めくっていただきまして、「地域猫活動のすすめ」でございます。

これはNPO法人ねりまねこという団体をお願いした、練馬区保健所との共催事業になります。

地域で猫を育てるという活動を通して、地域のコミュニケーションの輪をつくるといった活動のご紹介をやらせていただきました。

そして、「にじみのキーホルダーづくり」ですが、これは、ちひろ美術館・東京との共催事業で、台風の中、多くの方に参加していただきました。

今年度はこれらのほか、高齢者支援の取組みや情報リテラシー関係の講演会を実施したいと考えています。今年度、「ユマニチュード～認知症に優しい介護の方法～」というタイトルで企画していたのですが、講師の先生と折り合いがつかずに、いまに至っております。できればこのような高齢者支援にかかわるような講演会も企画したいと思っております。

3ページをご覧ください。テーマ展示については、特別展示の部分だけのご紹介をさせていただきます。特別展示は、ふるさと文化館との共催事業で展示をしたり、私どもの主催事業の内容に合わせた企画展示という形で、かなりボリュームを増やしてやらせていただいています。

4ページのところで、まわしよみ新聞、手描きPOP私のおススメ本、描かれた練馬、これらについては現在展示中のものがございます。

最後に、子ども読書活動推進事業の小中学生を対象とした講座についてです。特に2番目の「図書館で楽しく学ぶ自由研究応援講座」ですが、これは新規事業でやらせていただきました。

ここには企業団体のCSR活用事業と書いてあります。CSRの意味は、企業等の社会貢献活動ということで、企業の利益を自分の営利活動だけに還元するのではなくて地域社会にも還元しようとするもので、各企業や団体で企画した教育プログラムを学校において無償で実施しています。今回はそれを社会教育事業に活用してやらせていただいたものです。

5ページを見ていただきますと、今年やった内容となりますが、日本弁理士会や



科学関係の会社の代表の方々が退職後に集まって設立したディレクト・フォース、作家の木暮太一さんが主宰している教育コミュニケーション協会、国際協力機構 JICA 青年海外協力隊の方、それから（株）NEC ネットエスアイからは南極越冬隊員の方に来ていただいて、南極の氷を実際にさわってもらうなど、体験的な学習プログラムを実施させていただきました。

大変人気が高くて、これには300名近い方のご応募をいただいて、160名近い小学生と保護者の方約70名に参加していただきました。CSR活用事業は予算が組めなくてもできるという講座になりますので、ぜひ活用されたらどうかと思います。

その他ということで、今年度の新規事業として石神井図書館通信を定期発行いたしました。今日はお手元に配付してございますので、後ほどごらんいただければと思います。

そのほか、近隣施設へのリサイクル本の提供です。消費生活センター、地区区民館、保育園、児童館、有料老人ホームの方に提供していますので、もしえーるや高齢者関係の方でもお声がけいただければというふうに思っています。以上になります。

これらの事業を通して見えてきた課題を資料の一番下に四つにまとめてみました。今日はその中で3番と4番について、話し合いをしたいと考えております。

次の資料、これは簡単にお話をさせていただきます。

こちらのA3判の資料になります。

これは色分けをさせていただいておりますが、全区立図書館で実施している事業を、私が一つずつ拾い上げてまとめたものです。

ピンク色のものが乳幼児向け、黄色いものが小中学生向け、緑色のものが一般向け、オレンジ色のものが高齢者向け、ちょっと薄いグレーがかったものが障害者向けという内容になっています。ここで高齢者向けのものが少ないというのがよくわかると思います。

この表をご覧ください、図書館事業で欠けている部分、もっと力を入れていたらいい部分を読み取っていただけたらという思いで作らせていただきました。

次の資料です。本当に今日は資料が多くて恐縮でございます。

「これからの図書館」というものですが、横型のものです。

最近の図書館とは、ブックカフェができていたり、書店が入っていたり、いろいろな機能を取り込んだ図書館ができています。

めくっていただくと、大和市立図書館とゆいの森あらかわがありますが、これが去年の資料につけ加えさせていただいた新しい図書館です。大和市立図書館。昨年11月にオープンしたのですが、図書館と芸術文化ホール、生涯学習センターの複合施設です。屋上には子ども広場などありますが、1年間で300万人の市民が足を運ぶという人気の図書館施設になっています。

特に、何がいいのかというと、健康図書館という異名も持つ程、4階に健康テラスというのがあり、毎日のように認知症予防などの健康に関する講座が行われています。石神井図書館ではそのような取り組みはなかなか難しいのですが、市民からはこういった施設が期待されていると感じているところです。

それから、ゆいの森あらかわです。こちらは、逆に子ども向けのエリアがありまして、そこで毎日のようにワークショップや体験型の講座が開催されています。

こういった新しい図書館を見ていきますと、次のページで紹介した図書館の共通点としてまとめられるように、ゆっくりくつろげる図書館であったり、交流の場を求める図書館、それから課題解決の図書館、そういった施設が望まれているようです。今後の図書館の役割もそこにあるのかというふうに考えるところであります。

事業の説明・報告等については、以上になります。

続きまして、次第5になります「アンケート等によります石神井図書館への意見・要望」についてお話しをいたします。

平成28年度石神井図書館への主な意見・要望一覧という資料になります。これは昨年のこの懇談会でアンケート結果と、毎年11月から12月にかけて行っている利用者アンケートを項目別にまとめたものになります。

その中からどういう課題が見えてくるのか。また、今年までにその課題に向かってどれぐらいできたかということのをあらわした資料になります。

まず、若い世代の図書館事業への参画ということで、いろいろなご意見をいただきました。

実施できた事業としては、先ほどご紹介しましたビブリオバトルになります。

それから、地域施設の連携による図書館事業の展開という項目におきましては、白百合作業所と連携事業として、先ほどご案内したような読み聞かせの事業をやらせていただいております。また、ふるさと文化館との連携事業については、連携展示以外にどのような事業を実施できるかただいま検討中でございます。

平成28年度の利用者アンケートについての取組み状況をご説明いたします。

飲食スペースを拡大してくつろげる場を増やすというのがあります。

平成30年度の予算要求を現在しているところですが、今日皆さんが来られたときに、エレベーター前のテラスにウッドデッキがあったかと思います。今、使えない状態になっておりますので、それを何とか来年、再来年度に予算をつけて、そこでカフェテリアみたいな、憩える場にしたいと考えております。

次に、「情報発信してほしい内容」についてのご意見です。

当館では、今年度新たに石神井図書館通信というのを発行させていただいて、さまざまなCDですとか新着本を紹介するようにいたしました。

次に、「満足していない主な理由」に関してのご意見です。「椅子とか机が少ない」というご意見については、子ども用の椅子、テーブルを平成30年度予算で要求中でございます。

「リサイクル図書のPRをもっとした方がよい」というご意見がありますが、これについては先ほどご案内したとおり、近隣施設にご紹介して、活用を図っているとございます。

次に、「図書館で実施する子ども向け事業に望むこと」についてですが、「興味・関心を引く講座を実施してほしい」というのがありましたので、今年の夏に、自由研究応援講座を開催いたしました。

最後に、資料「利用者の声一覧」については、申しわけございませんが、時間の関係で割愛させていただき、後ほど、お目通しください。

今日の懇談会のテーマをホワイトボードに書かせていただきましたので、司会の進行で、これからご意見を頂戴できればと思っております。よろしくお願いいたします。

## 5 懇談

**図書館** それでは、ただいまから本日のテーマでございます「地域と共に歩む石神井図書館」についての懇談に入りたいと思っております。

今、館長からご説明いたしましたとおり、地域の社会資源、社会資源といえますか、例えば施設ですとか、そこで行われます事業、それから地域活動団体ですとか、その取り組み、ボランティア、そういったものを活用いたしまして、こちらの前に書いてございます課題の3、「地域交流の場となる施設づくり、事業運営」について。

それから、課題の4、「超高齢化社会に対応した新たな図書サービスの展開」について。これらにつきまして、ご出席いただきました皆様とともに考えていきたいと思っております。

なお、日ごろの図書館サービスに対するご意見、ご要望につきましては、意見交換の後半に時間をとらせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、課題3と4を、順番に考えていきたいと思います。

それでは、まず、課題3、地域交流の場となる施設づくり、事業運営につきまして、例えば、「こんな課題があるので、こんなことをしてはどうか」といった形で、ご意見、ご提案があればいただければと思います。いかがでございましょうか。

### ●課題3「地域交流の場となる施設づくり、事業運営」について

**図書館** なかなかイメージがわきにくいかもしれませんが、地域交流の場になるということであれば、公民館や地区区民館、えーるなどではサークル活動などを行っている団体があるかと思いますが、図書館はそういったサークルができていく土壌があるようで、ボランティアの方々の集まりはあっても、何か講座をやったからといってサークルができるといった発展がありません。そうした意味ではもう少し、サークルの

呼び込みをしたりといった必要性もあるかと思うのですが、ご自身の館でどのようにサークル化しているかといったお話をいただいてもよいかと思います。

**利用者**      ちょっと、いまの趣旨に合うかどうかわからないのですが、私たちの会は布の絵本を製作、補修するといったお手伝いをする面と、会員の皆さんは手芸が得意という面があります。布の絵本については発足1年半ということで修行中ということもあるのですが、手芸の面では経験や考え・アイデアをお持ちの方がいらして、その中でこの間、トルストイの「大きなカブ」の世界を洗濯バサミを使ったお人形のアイデアをもってこられた方がいました。早速作ってこられた方もいて、それが使えないかと思いました。図書館がおはなしの会とかをやられているし、ちょっと大きなものにすれば、そういうところで使ってもらえるものになる形にできるのではないかと思います。

ただ、まだ内々の感覚なので、やはりそういうところで使えるようにするためには、意見を言っていただかないといけない。こういう風にしたらどうかとかアイデアをいただきたい。そういう面で、先日、職員の方にお話をしたところ、大変、興味をもってくれましたので、ぜひ、見ていただきたいと思います。おはなしの会でも使えるし、障害者向けのイベントでも使える面があるのではないかと思いますのですが、今は小さいので、うまくコーディネートしていただけると新たな活動の場ができてよいと思っていますところでは。

**図書館**      「しゃくじい通信」という広報誌を作りましたので、その中で活動紹介して活用を図るということもできるかと思います。

**利用者**      それよりも直接、意見を言っていただけるような場がほしい。こないだ職員の方がお話をしてくれたようなアドバイスをいただけると、こちらも反応がしやすい。

**図書館**      わかりました。

**図書館**      日頃の活動や利用の仕方の中から何かあればお願いします。

**利用者**      先ほど、ボランティアの方から布の絵本やよみきかせなどのお話を伺いましたが、高齢者の方でも先ほど、館長からお話があったように、「まちかどケアカフェ」という出張型の事業があります。各地域に行ってお茶を飲みながら、催し物ではありませんが介助をするといったものを、各支所がいま行っている事業です。夢の木支所では土曜日でしたが防災センターの方に来ていただいて、7，8名ではありましたが、楽しんでもらいながらお茶を飲みながら話ができたといった企画がありました。それと、豊玉の方に高齢者はつつセンターというものがあまして、そこはまだお元気な高齢者の方がいらっしゃるところなんです、そこでは活動として、手芸であったり、そういうものに参加したいという方がいらっしゃいます。そういうところでは需要と供給ではないですが、今後、皆さんの活動を考えていけるのではないかと思います。あとは図書館の活用ということですが、同じ法人で中村橋支所があり、貫井図書館で認知症サポーター養成講座とか、若い人対象に「親の家の片づけ」についての講座などを図書館と共同で開催しています。高齢者の方たちも特にまだ団塊の世代の方たちは若いので、いろいろな活動があれば参加したいのかと思います。私たちが企画するものは高齢者といっても80代中頃以上なのですが、何か高齢者の方が参加できるものがあればご案内できるのかと思いました。

**利用者**      いま、高齢者の話が出ていましたが、私も高齢者に該当するかと思いますが、私共の読書会に来ていただいている方も概ね40歳から90歳位の方まで25人くらい来ています。出前の話がありましたが、高齢の方が集まる場に必要があれば出かけていく、その中身も会員の中には大学院の講師をやっていた方もいて、卒論に夏目漱石のことをやったので大変、助かっています。こういうものでも出かけてまいりますので、そういう外での活動も大いにやっていこうと思っています。どんどん高齢者は増えていきますので、そういう仕組みを作っていきたいと思っています。

それからイベントですが、来月の4日に、夏目漱石の生誕150年にあたり、新宿区に新しく漱石山房記念館もでき、私共の団体も漱石山房会館のプレートに記銘されました。皆さんも行かれましてらご覧になってください。

それから去年は鎌倉に漱石が座禅をしたお寺に行って当時のお孫さんにあたるお坊さんの下で座禅をしてきました。そういったイベントにも一緒に行きませんかといった働きかけもやっていきたいと思っています。読書だけでなく、そういった活動も一緒に行って絆を深めたい。学習も深めて練馬にも貢献していきたいと考えています。

**図書館**      ありがとうございます。図書館でもそのような事業を考えていきたいと思っています。図書館とのかかわりの中でこんなこともできるのではないかといたことがあればお願いします。

**利用者**      障害福祉の側面からいきますと、なかなか障害者が図書館を利用することが難しい状況があるのかと思っています。とはいえ、図書館はだれでも利用できるものですし、障害のある方も臆することなく関わっていければいいかという意味では、練馬区は23区の中でも障害者に対する施策が優秀な区だと思いますので、そういう意味で障害者が図書館に集まってくるというか、そういうことができればいいと思います。そのためには地域の理解がとても大切だと思うので、そういう意味ではちょうど目の前にある位置関係ということで、うちの方で障害に関する講座を図書館で定期的に実施できれば、障害に興味があるという方が図書館に足を運んでいただけるのではないかと思います。せっかく、このような広い会場もありますので、福祉に関する講座を定期的にできたらいいと思います。

あと、先程、館長さんからもありましたが、カフェというものがあるといいかなと思います。せっかく、広い駐車場というかスペースがあるので、例えば、車でよく販売しているカフェみたいなものが週替わりでやったりとか、または常設で作るということであれば障害者の施

設や公共の施設でやっているところもありますので、週替わりでパンの販売をやったり、ちょっとした物品の販売会などをやってみてもいいのかなと思います。先ほどの要望一覧で、「障害者を対象とした読み聞かせを行なったり、福祉作業所などの取組みを案内するなどの連携した事業ができればいい」とありますので、今後も協力して何かができるばいいかなと思っています。

**図書館** この会場となっている会議室ですが、ほとんど一般の利用がありません。年間の稼働率は数%というところでは、何に利用しているかというと臨時閲覧席として開放をしています。閲覧席といっても本来は1階の閲覧席を補い、当館の蔵書を閲覧するために設けているもので、実際は参考書などを持ち込んでの学習室的な利用が多くなっています。ですので、いまお話があったような共催事業であったり、読書会などのサークル活動の場として使っていただき、そこから地域交流が生まれていく、図書の利用も増えていくといった形になればいいと思っています。

**利用者** どのような形で申し込めばよいのでしょうか。

**図書館** 図書館活動に関わりのある団体は利用の3か月前の初日から、それ以外の団体は2か月前からの申し込みとなります。行政目的の場合は使用料免除ですが、練馬区生涯学習団体への届け出をしている団体は使用料が半額となります。

#### ●課題4「超高齢化社会に対応した新たな図書サービスの展開」について

**図書館** では、よろしいでしょうか。次に、課題4の「超高齢化社会に対応した新たな図書サービスの展開」についてご意見・ご提案をいただければと思います。いかがでしょうか？

**図書館** さきほどもカフェの話やいろいろな講座をやるといった話も出ていましたが、高齢者福祉の世界では地域包括ケアマネジメントといいまして、概ね中学校区という生活圏の中において、介護保険サービスや虚



弱高齢者に対する介護予防サービスを展開していくということを高齢者相談センターなどが中心となってやっています。介護保険を使うサービスだけでなく、中には元気高齢者がいたりとか、介護保険を使う前の段階として、一般的には介護予防と言われていますが、そのような方たちがもっと元気に健康になってもらおうというプログラム作りが進められています。そのケアマネジメントシステムの中に一つ、図書館も組み込んでいただいて、例えばここで健康体操をやってもいいと思っています。さらに言えば、いま高齢者向けプログラムとしてヨガが大変、流行っていると聞いています。この図書館でもできたらいいなと思っていますが、そのような具体的な講座のご提案もいただきたい。また、介護保険ではケアプランといって、利用者が自立に向けてどのような生き方を望んでいるかといったものを介護保険のサービスだけでなく、外部サービスとして、地域にある図書館のサービスなどをその利用者に有効であれば位置づけることが可能となっています。私が昨年、ケアマネジャーの実習を受けた際に、実際に92歳の軽い認知症をお持ちの方のケアプランを立てましたが、その方は以前、新聞や本を読むのが好きだったが字が小さくて読みづらくて読まなくなったとのご家族からのお話がありました。そこで、郵送サービスや大活字本の活用をケアプランに位置づけることといたしました。そうしたことから、図書館と福祉は連携できることが意外とあると考えています。一方で、私の実家近くには図書館はありません。以前は移動図書館などがありましたが今はありませんので、遠くまで歩けないといった少し元気な高齢者となると図書サービスが受けられない状況が生まれており、脳の機能低下にも関わってきています。高齢者地域見守りネットワークというものがありますが、地域の支援というものがとても大切だと考えています。長くなりましたが、このような思いがあり、図書館では何ができるのかを今回、課題設定させていただきました。実際には高齢者相談センターなどでもこのような相談も受けら

れることも多いかと思いますが。

**利用者** 移動図書館がなくなったというお話がありましたが、実際、施設に入られている方もいらっしゃるので、そういう方の中には昔は本が好きだった、趣味では読書という方もおられ、自分では読めなかったりということもあります。認知症の方などですと、難しい本などはわからないのですが、昔話であったりとか、そういうものだとわかるんです。職員が読み聞かせなどをしてたりするので、本を借りに行くことも職員が忙しくて難しいと思いますので、何かまとめて借りるなどできるというのですが、その中継というかが課題で、さきほど配達のボランティアというお話がありましたが、ボランティアはいないし、本は重いしといったこともあります。誰がやるかといった、その役割まで考えるととまらないのですが、まとめ借りでそろえてまとめてお返しするとかができればいいと思います。あと、病院ですよ。衛生面はわかりませんが、入院されている方も本を読みたい方も多いと思いますが、その点はどうでしょうか？

**図書館** 病院については光が丘図書館だったか、実際に職員が行って読み聞かせをするといった会をもっています。高齢者についてはデイサービスでの読み聞かせはあっても病院までは行っていません。

**利用者** 本はあってもどうつなげるかが課題なのかと思います。

**図書館** 施設や病院などで、ただ一日中、テレビを見ているのでは脳が活性化されず脳機能が低下してしまいます。文字を読む、音を聞く、声を出すということは認知症予防にはとても大事でそのようなサービスが必要な時代になっていると思います。それには職員だけでは無理なので、地域人材の活用といったボランティアの協力をいただかないといけないと考えています。

**利用者** ボランティアを育てるということも私たち福祉の使命でもあるのですが、元気な高齢者のお手伝いをいただきたいと思います。

**利用者** 依頼があれば行っている方たちもいると思います。練馬の方は老人ホ

ームとか行っている方は少ないほうだと思います。ただ、高齢者になるとそれまで生きてきたプライドとかその方の価値観とかありますので、その辺のことを大事にしながら、お話を選ぶといった難しさがあるかと思います。でも、人数が多いので依頼があれば手が上がるかもしれない。

**図書館** 内容も利用される方がどのような状態なのか、能力もどこまで維持されているかが大事かと思います。絵本がいいというお話もいただいたりしますが、一方で、なんで絵本といった方もいるので、その辺はよく施設の方と連携をとる必要はあるかと思います。

**利用者** 定番というものもあるのですが、その方の性格とか個々を見ていく必要はあるかと思います。でも声がかかれば手は上がるかと思います。

**利用者** ありがとうございます。では後ほど、ご相談させてください。

**利用者** 館内はバリアフリーとか、高齢者の方が来られて休める場所とかはあるのでしょうか。

**図書館** 館内はバリアフリーとはなっていますが、休憩コーナーは1階と2階のソファのある部分しかありません。

**利用者** よく高齢者の方でいなくなってしまう方もおられるのですが、どこに行っているのかと思うと、図書館とかで休まれていることがある。行くところがなくて、図書館で新聞を読んで時間をつぶされている方もいると聞いています。そういう方はこの図書館にも何人かいらっしゃいますか？

**図書館** そういう方かどうかは私共のほうではわかりません。ただ、図書館では認知症高齢者に対しての理解といったテーマで研修を盛んにやっていますが、利用者の方の中で認知に障害があるか否かといった点はまだ研修を積んでいる段階かと思います。私も徘徊高齢者をよく保護したり、施設にいれたりといったことは経験がありますが、なかなか難しい問題だと思います。

**利用者** 高齢者の問題になってくると、リハビリとかいろいろありますから、

病気のことでとなると私共はお手上げなんです、しかし、（読書会には）杖をついていらっしゃる方もいますし、私としては健常者として扱っています。なので、いま言われていたようなこととなると困るんですが。

レファレンスのことは課題5「蔵書の充実とレファレンス機能の充実」に出てきます。レファレンス自体問題があるのですが、閉架にあるものをどんなものがありますかと言った場合に、それをプリントにしてくださいと言ってもやってくれない。どうして閉架を教えてくれないのですか？どこの館、12館ともそうです。レファレンスの調査を私、独自でやりました。閉架にどんなものがあるのか、そこで読みたいものを選びたいといっても教えてくれない。文科省ではボランティアサポーターをつけなさいと書いてありますが、それをやらない。どうしてやらないのか？

**図書館** 閉架にはかなりの蔵書数がありますから、それをすべてプリントすることはできません。お探しの本や記事などをお聞きし、リストアップすることはしていると思います。それがレファレンスの趣旨ですので、お探しの本を絞っていただければと思います。

**図書館** （閉架に案内することも含めて）このご意見については、全館に関わることとなりますので光が丘図書館にお伝えして後日、ホームページで回答するようにいたします。

**利用者** 図書館で、先程も図書館で会議室の貸出の件ですとかあるかと思うのですが、どういうサービスが使えて、どういう施設があるのかというのは施設の一覧とかにあるのでしょうか？

**図書館** 本日、お配りいたしました資料に「練馬区立図書館利用案内」というものがありますので、そこに図書館のサービスおよび施設については記載があります。

**利用者** 会議室については、せっかく貸し出しもしているということなのですが、なかなか周りには知られていないということなので、大変もった

いないので、詳しい利用方法についてそのようなものがあればと思います。石神井図書館独自のものはあるのでしょうか？

**図書館**       あります。今回はお配りいたしませんでした。一般的な利用については年4回発行のしゃくじい図書館通信でご案内できればと思います。

**利用者**       何か一つ、詳しいものを作って、たくさんの人に知ってもらえたらいいのではないかと思います。

**図書館**       ありがとうございます。検討させていただきます。

**図書館**       本日は、男女共同参画センターえーるの所長がいらっしゃっていますので、一つお伺いしたいのですが、えーるの広報誌ステップを拝見して図書室の新刊案内がありました。先ほどのリストアップの話ではないのですが、どのような蔵書があるかわかると、当館のレファレンスの際にえーるの図書室をご案内できるかと思うのですがそのような情報をいただくことは可能でしょうか？

**利用者**       冒頭でお話をすればよかったのですが、当施設は学童と保育園が指定管理となっていますが図書室と相談室の運営は区の職員が直営で運営しております。図書については情報誌ステップも含めて区が運営しておりますので、お伝えすることができません。

**利用者**       図書館サービスの中で団体貸し出しについて話が出なかったのですが、団体貸し出しの場合、3か月300冊となっていますので利用していただきたいのですが、弁償について、失くしてしまったとか破損させてしまったとかあった場合、子供の場合は学校への貸し出しもあり細かく決まっているようですが、一般の方に対してはあまりそういうのがなくて、以前、高齢者センターに新刊で貸出した際に無くなってしまったといったことを聞いたことがあります。特別な施設に貸し出しをした場合には、何か規制緩和というか配慮をしていただければ利用しやすくなるかと思います。全体的なことになるかと思いますので上にあげていただくことになるかと思いますよろしくお願いします。

えーるの件については、昔は石神井図書館がずいぶんと本をリサイクル

ルしていました。いつの頃か、そのようなことがなくなってしまった  
ようで、除籍本の中でも比較的新しいものはえーるにあげていたとい  
うことがありました。

**利用者** いっぱい良い本をいただいていた。

**図書館** 除籍本のリサイクル、団体貸し出しの件、ありがとうございました。  
リサイクル本については有料老人ホームについては既に情報提供した  
り、団体登録などもしていただいております。えーるについても提供  
をしていきたいと思ひます。

**利用者** えーるには、光が丘図書館にいる係長がいたことがありまして、本が  
傷んだ時には石神井図書館に相談に行くように言われました。

**図書館** そうでしたか。ぜひ、そのようなことがありましたらご相談いただけ  
ればと思ひます。出張もさせていただくこともあるかと思ひますので  
よろしくお願ひいたします。

**図書館** 本日は、本当に貴重なご意見をたくさんいただきまして、本当にどう  
もありがとうございました。時間が超過してしまひまして、申しわけ  
ございません。以上をもちまして、平成29年度石神井図書館利用者と  
館長の懇談会を終了いたします。どうもありがとうございました。